



Ф. М. Достоевский.  
Портрет работы В. Г. Перова. 1872 г.  
Государственный Третьяковский галерея (Москва).

[ 肖像画 ]

В.Г.ペローフ画 1872年

ドストエフスキイの肖像画として、これが恐らく最も有名なものでしょう。私も若い頃、ペローフの肖像画が表わすドストエフスキイの精神性の深さに驚かされ、心から感動させられました。しかし決定的だったのは哲学・宗教思想の師小出次雄先生から「ペローフの肖像画が果たしてドストエフスキイの精神世界を描き切っているかどうか、考える余地がある」と言われたことでした。この絵の更に奥にドストエフスキイ世界の奥深さを一体どう求めてゆけばよいのか、私は途方に暮れました。

しかしやがてドストエフスキイの肖像写真に触れることが多くなり、また私自身の芸術作品との取り組みも増えるに従い、師の言われたことを段々と実感を以って受け止めることが出来るようになってきました。たとえば先に掲載したドストエフスキイ最後の肖像写真(1880,パノーフ撮影)と較べてみると、ペローフの肖像画の端正さや鋭さ、また彼の視線が向かう奥深さは

素晴らしいものですが、肖像写真の方は、闇と光との交錯によって刻まれた複雑な陰影、とりわけ正面からこちらを見つめる彼の視線の鋭利さと真摯さ、そして奥深さが圧倒的な力でこちらに迫り、懼しささえ感じさせられます。

皆さんも、是非、このペローフの肖像画と前回のパノーフの肖像写真とを見較べてみて下さい。私の感想を決して絶対的なものとして受け取ることはなく、飽くまでも一つの参考として頂ければよいのです。

師から私はレンブラントやゴッホの自画像やルオーのイエス像など、古今東西の先哲たちのテキストだけでなく、肖像画や写真などとも向き合い思索することの重要性を繰り返し説かれました。そして私自身もこのことを若い人たちに勧めてきました。今後もこの「ドストエフスキ研究会便り」で、ドストエフスキのその他の肖像画や肖像写真をコメントと共に紹介したいと思っています。皆さんがドストエフスキについて、そして人間について思索するための一つの「叩き台」として頂ければと思います。